

令和3年度  
事業報告

社会福祉法人 博愛会

ハートニー松葉

# 目 次

## I. 法人事業報告

- 1. 令和3年度総括..... 2
- 2. 令和3年度の重点的な取り組み..... 3
- 3. 運営..... 4

## II. サービス事業別報告

- 1. 軽費老人ホーム ケアハウス ハーモニー松葉..... 15
- 2. 老人デイサービスセンター ハーモニー松葉..... 24
- 3. 介護予防体操教室事業..... 31

## I. 法人事業報告

## 1. 令和3年度総括

第一に令和3年度は平成31年度に策定した3か年運営計画の最終年度であり、現行運営計画の振り返りを行い、課題点を引き継ぎ令和4年度の中期計画を策定することを目指した。現行ケアハウス運営計画で重点的取り組みとして掲げた①軽費老人ホームの特性やストレングスを活用し、職員とご入居者が協働で施設運営や地域貢献に取り組み、当施設が地域包括ケアシステムの中核を担えるよう邁進する。住まいや生活困窮者のためのセーフティネットの役割機能を強化する。②職員は自ら考え行動し、専門職としての能力を最大限発揮し、ご入居者、ご家族及び地域、それぞれの想いが叶えられるよう、課題解決や目標達成に向け支援する。③ご入居者が10年先も安心して生活できるよう、多様化、複雑化するニーズや日常生活機能障害に対し生活支援を行う、という3点について、完遂はしていないが、目指すべき将来に向かって歩みを進めることができた。入居者自身が役員や係を担当して、発言や提案をすることで職員と協働で施設運営に係わったり、子ども食堂で小学生への寄せ書きに参加することで、地域貢献に取り組んだ。施設の機能としては、自然災害時に対応した非常時備蓄品やスペースを備えることで、福祉避難所として地域における重要な資源となり、セーフティネットの役割を担っている。地域包括ケアシステム構築の観点からは、入居者が住み慣れた矢野口地域で自立した生活を送れるように、施設サービスとして入居者へ運動する機会やイベントを提供し、「自助」と「互助」を支援している。

運営計画を策定した初年度に新型コロナウイルス感染症の流行のため、令和2年度から運営計画の見直しを行い、事業計画を策定した。最も大きな変更はデイサービスの受け入れ人数の制限により見込み利用者数を大幅に下げたことであり、収益に見合った人員配置、経費支出を見直し実施した。

職員が自ら考え、行動するという行動基準をもつことや専門職として能力の開発を行うこと、PDCAを回していくことについて不足しているため、対策を令和4年度からの中期計画及び事業計画に盛り込んだ。

第二の目標として事業運営・経営の安定を目指した。令和2年度は法人全体の経常増減差額が△1,340千円で赤字だったが、令和3年度は3,550千円で黒字となった。支出削減のため業務の見直しによる残業時間のコントロールや節電・節水・節約の上げる意識を高め、効率的な事業運営になるように努めた。前年度比で経常増減差額が上がった主な原因は人件費の減少とデイサービスの収益の増加であるが、人件費の減少は正規職員の育児休暇中の減少のため、事業経営の安定化には収益をあげることが必要条件となる。

第三に人材育成について、多くの職員は外部研修・内部研修に参加し、学んだことを現場で実践・活用していた。しかし、経験が浅い職員の場合、研修だけでは育成は不十分であり、施設に合わせたキャリア形成ができるようにキャリアパス体系を再検討することを中期計画で策定した。

第四に地域貢献と交流の促進について、コロナ禍により地域の行事や施設のイベントが中止となり、地域の人々との接点が減っていることが課題となっている。やのくち会議への出席や子ども食堂は継続し、感染症の状況を踏まえながら、施設として地域にできることを模索し実行していく。

第五に新型コロナウイルス感染症対策について、職員や入居者・利用者の高い感染予防意識と感染対策の実践により、オミクロン株流行時でも施設内でクラスターが発生することなく経過し、事業を休業することなく運営することができた。

## 2. 令和3年度の重点的な取り組み

### (1) 運営計画に沿った運営

- ・デイサービス利用者稼働率の確保、地域交流への取り組みは運営計画通りに遂行できなかったが、重点的な取り組みは概ね遂行できた。新型コロナウイルス感染症などの大きな変化に適応した法人の基本方針を決定し、前運営計画で解決できなかった課題を引き継ぎ、令和4～6年度の中期経営計画、令和4年度事業計画を策定した。

### (2) 運営・収支安定への取り組み

- ・デイサービスについて、令和3年11月よりお茶出しボランティアの受け入れを再開したため、ボランティアの協力により職員の業務の一部が軽減され、デイルーム内の利用者への見守りや手厚いサービスが可能になった。また、ボランティアによる多彩な午後のプログラムの提供により利用者の満足度が向上した（令和4年1月より再び午後のボランティアの受け入れを中止）。午後のプログラムについては満足度が上がるように職員が飽きさせないプログラムを提供するように努めた。

- ・デイサービスの新規利用者数は延38名（前年度23名）、終了利用者は延27名（前年度33名）であり、新規利用者が15名増加し、終了利用者は6名減少した。デイサービス稼働率は受け入れ人数を最大32名とすると74.0%（前年度71.2%）で2.8%向上した。そのためデイサービス事業は前年度より約1,500千円の増収となった。

- ・ケアハウスはホームページや松葉だよりによる広報活動を継続したが、稼働率は97.5%（前年度97.5%）で変化がみられなかった。

- ・毎月、財務指標を算出し月次分析を行った。外部委託先の会計担当者、理事長、施設長、経理職員で事業運営・経営の現状と課題を協議し、今後の方針について情報共有を図った。施設長は各部門に対して対策を指示、共有した。

### (3) キャリアパス体系・人事考課制度の充実

- ・外部・内部研修へ多くの職員が出席した。外部研修は上司が必要と判断した場合に受講

を勧め、その他は申出制として非正規職員に対して研修内容を周知した。外部研修はオンライン受講がメインであり、延 16 名が参加した。参加者は正規職員が大半で、非正規職員の外部研修の受講は 1 名であった。内部研修は正規・非正規職員ともに大多数が受講した（P.8「②職員昇格・昇給、キャリアアップ、人事考課について」、「③人材育成について」に詳細を記載）。

#### （４）地域貢献及び交流の促進

- ・稲城市生活支援体制整備事業の第 2 層協議体「つながろう矢野口」へ出席し、連携を継続した。子ども食堂については前年度から引き続き、弁当手渡し方式で継続した。令和 3 年 11 月よりフードロスの観点から対象をこどもに限定しない「子ども食堂のフードバンク」を開始し、月 1 回の開催と月 1 回の振り返り会議を 3 法人及び社会福祉協議会、地域の方々で行い、今後の在り方について協議した（P.12「3. 運営（４）地域貢献・地域交流」に詳細を記載）。

#### （５）新型コロナウイルス感染症対策

- ・施設独自の「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」に従って、基本的な感染対策を継続した。不要不急の施設来訪は禁止し、必要な場合は施設へ事前に電話連絡をする許可制とした。

- ・午後のプログラムのボランティアの受け入れについて、令和 3 年 11 月に受け入れを再開したが、令和 4 年 1 月中旬から再び受け入れ中止とした。介護支援ボランティアは令和 3 年 10 月から受け入れ、2 月より中止とした。エトピア工房の菓子販売については令和 4 年 1 月から中止とした。

- ・感染発生状況として、令和 4 年 2 月に陽性者 1 名（ケアハウス職員）、濃厚接触者 2 名（デイサービス職員）が判明。該当者を自宅待機にすることで、事業は休業せず継続した。

### 3. 運営

#### （１）理事会・監事・評議員会について

- ・理事会は定款に基づき、年 4 回開催し、決議による業務執行の意思決定を行った。理事長の職務執行状況の報告は 4 カ月を超える間隔で 2 回行った。

- ・評議員会は定款に基づき、定時評議員会を年 1 回、臨時評議員会を 1 回開催した。定時評議員会では決議による業務・経営組織の事後的な監督を行い、臨時評議員会では新たに選任された評議員の紹介および評議員の役割、法人の運営状況を共有を行った。

・監事は定款に基づき、監事監査および理事会・評議員会に計7回出席し業務執行の監査と監査報告を行った。

① 役員、評議員、評議員選任・解任委員（令和3年4月1日現在）

役職	定数	氏名
理事	6	城所正彦（理事長）、角田等、宮澤秀弘、湊上宏美、吉野貴美子、青木正文
監事	2	河村保正、木村重樹
評議員	7	鹿島正二、笹久保博子、今泉浩史、西畑博仁、角田政信、佐藤久美子、種田匡延
評議員選任・解任委員	3	角田享（外部委員）、木村重樹（監事）、浅利洋平（事務局）

② 理事会・評議員会開催状況

■理事会開催状況

回	実施年月日	理事出席数	監事出席数	主要な付議案件	審議結果
1	5月26日	6	2	第1号議案 令和2年度事業報告について 第2号議案 令和2年度決算報告について 第3号議案 次期役員選任案について 第4号議案 令和3年度定時評議員会招集決議について	可決 可決 可決 可決
2	6月14日	6	2	第5号議案 理事長の選任について 第6号議案 理事の順位指名について	可決 可決
3	10月25日	6	2	第7号議案 健康情報等の取扱規程（案）の承認について 第8号議案 通所介護事業重要事項説明書及び契約書別紙、介護予防・日常生活総合支援事業重要事項説明書及び契約書別紙の一部改正（案）について 第9号議案 令和3年度臨時評議員会の招集決議報告 理事長の職務執行状況について	可決 可決 可決
4	3月24日	5	2	第10号議案 介護職員等処遇改善支の手当の支給に関する規程の専決事項の承認について 第11号議案 令和3年度補正予算について 第12号議案 中期経営計画・実施計画について	可決 可決 可決

				第 13 号議案 令和 4 年度事業計画について	可決
				第 14 号議案 令和 4 年度当初予算について	可決
				第 15 号議案 通所介護及び通所介護予防・日常生活支援総合事業契約書別紙の一部改正(案)について	可決
				第 16 号議案 業務委託契約について	可決
				第 17 号議案 苦情解決第三者委員の選任について	可決
				報告 理事長の職務執行状況について	

### ■評議員会開催状況

	実施 年月日	評議員 出席数	監事 出席数	主要な付議案件	審議結果
定時	6月 14日	5	2	第 1 号議案 令和 2 年度事業報告の承認について 第 2 号議案 令和 2 年度決算報告書の承認について 第 3 号議案 次期役員（理事・監事）の選任について	可決 可決 可決
臨時	11月 25日	6	2	決議事項 なし 報告事項 評議員の紹介 評議員会について 理事長の職務執行状況について	

※臨時評議員会は令和 3 年 2 月 19 日の評議員選任・解任委員会で新たに選任された評議員の紹介を主旨とした。（令和 3 年 6 月 14 日から任期が開始となり、令和 4 年 6 月の評議員会まで 1 年以上評議員会がなく期間が空いてしまうため、紹介する機会を設けた。）

### ③ 監事監査結果

令和 3 年 5 月 12 日（水）に当法人の監事による令和 2 年度事業報告及び決算諸表の監査を実施した。

### (2) 法人借入金償還状況

※元金のみ

(単位：千円)

借入先	当初借入額	償還済額	当期減	借入残額	用途
(独) 福祉医療 機構	165,300	165,300	8,260	0	施設設置・ 整備資金
(独) 福祉医療 機構	20,000	0	0	20,000	経営資金

※20,000 千円の借入については、令和 2 年 10 月に借入れ、令和 7 年から償還開始、令和 12 年で完済予定。

### (3) 人事管理・人材育成

#### ①職員配置

・デイサービス非常勤職員は、デイサービス利用者数が計画より少なく推移したため、期中で人員配置数を見直し、3名少ない17名とした。

・令和3年度は介護予防体操教室事業を実施しないため、介護予防運動指導員、介護予防補助指導員の配置をしなかった。

#### ■配置状況（令和4年3月31日現在）

施設長（1名）、常勤職員（6名）、ケアハウス非常勤職員（10名）、  
デイサービス非常勤職員（17名）、合計33名

#### ■部門別内訳（令和4年3月31日現在）

##### ケアハウス部門

	正規職員	非正規職員
施設長	1名	
生活相談員	1名	
介護職員	1名	1名
事務員	1名	1名
用務員		5名
宿直員		5名
合計	4名	13名

##### デイサービス部門

	正規職員	非正規職員
施設長	1名	
生活相談員	1名	1名
看護師		3名
介護職員	2名	7名
運転手		7名
合計	4名	18名

■職員人事異動状況（令和3年度中）

部門	採 用		退 職	
	ケアハウス	デイサービス	ケアハウス	デイサービス
正規職員	0名	0名	0名	0名
非正規職員	1名※1	4名※2	1名※3	7名※4
合 計	1名	4名	1名	7名

※1 宿直員 1名 ※2 介護職員 1名、運転手 3名

※3 宿直員 1名 ※4 介護職員 3名、運転手 4名

②職員昇格・昇給、キャリアアップ、人事考課について

- ・職員昇格・昇給について、人事評価及び業績に基づいて実施した。
- ・今年度キャリアアップする対象職員はいなかった。
- ・人事評価制度について、役職者の人材育成の意識と技能向上を図るため、役職者の評価対象者の範囲を広げた。
- ・人事評価について、全職員に対し、賞与前に年 2 回実施した。フィードバック面談を年 2 回、正規職員に対し理事長、施設長と 3 者で、非正規職員に対し施設長と 2 者で行い、現状の評価と今後の目標について話し合った。
- ・非正規職員全員の現状の課題と今後の方向性の把握、資質・モチベーション向上のため、年度末に施設長と個別面談を行った。

③人材育成について

- ・新規採用職員 3 名に対して、デイサービス部門ではプリセプター制度による OJT を行った。ケアハウス部門では役職者を中心として OJT を行った。
- ・介護職員初任者研修の希望者に対して、当法人規程に基づく支援を行った。
- ・現任の職員に対する育成は外部研修への出席と研修報告の作成を通じて行った。正規職員については、学習の理解を深めることやプレゼンテーション能力向上、育成意識を高める目的で、法人内部研修での講師を年に 1 回以上担当した。
- ・応急手当普及員講習の受講により、応急手当普及員は 2 名増員し、法人内で合計 5 名となった。

■職員への教育実績

(令和4年3月31日現在)

内容	対象人数
プリセプター制度での新人教育	4名(デイサービス介護職員1名、 デイサービス運転手3名)
国家資格等の取得支援	1名

■令和3年度 内部研修会実施一覧

日程	研修名	実施者	参加職員数
4月10日	令和3年度 倫理・マナー研修	施設長	17名
5月8日	介護技術の基本研修	事故予防委員	17名
7月10日	第1回感染症研修 「食中毒・感染症(新型コロナ)について」	感染症委員	17名
8月14日	第1回身体的拘束適正化研修 「ケア・虐待について」	身体的拘束適正化委員	17名
9月11日	コミュニケーション研修	介護職員	15名
11月13日	第2回感染症研修 「食中毒・感染症(新型コロナ)について」	感染症委員	16名
11月27日	救命講習(普通救命講習Ⅰ)	事故予防委員	28名
1月15日	第2回身体的拘束適正化研修 「身体拘束について」	身体的拘束適正化委員	17名
2月12日	リスクマネジメント	事故予防委員会	17名
3月12日	チームビルディング研修	生活相談員	16名

※東京都軽費老人ホームの運営の基準に関する条例で定められている通り、感染症研修を年2回、身体的拘束適正化研修を年2回・事故予防研修を年2回実施した。普通救命講習受講により普通救命資格を23名が取得した。

■令和3年度 外部研修参加一覧

日程	研修名・委員会名	開催方法	主催者	参加者
7月23日	財務諸表から考える今後の社会福祉法人経営	WEB	東京都社会福祉協議会	事務員 施設長
9月1日	法人運営サポート研修（応用）	WEB	東京都福祉保健財団	事務員
11月9 ～11日	応急手当普及員講習	実地	稲城市消防本部	生活相談員・介護職員 各1名
11月18日	防火管理者・危険物取扱者等実務研修会	実地	稲城市災害防止協会	施設長
12月2日	高齢者虐待防止研修	実地	東京都福祉保健財団	施設長
12月4日	財務マネジメント中級研修	WEB	東京都社会福祉協議会	事務員
2月15日	軽費老人ホームの職員のための研修会	WEB	東京都高齢者福祉施設協議会	介護職員
2月20日	在宅医療・介護連携を推進するための多職種連携研修会	WEB	稲城市居宅介護支援事業者等連絡会	介護職員
2月22日	部下・後輩を育てるコーチング研修	WEB	東京都社会福祉協議会	生活相談員
2月25日	地域ケア個別会議	WEB	稲城市	生活相談員
3月23日	労務管理に関する研修会～副業・兼業に関する考え方と事業所の対応	WEB	東京都高齢者福祉施設協議会	事務員 施設長
3月31日	新型コロナウイルスと向き合う生活相談員	WEB	東京都高齢者福祉施設協議会	生活相談員 2名

※1 新型コロナウイルス感染症拡大のため、参加予定だったが研修自体が中止となった。  
法人外研修はコロナ禍のために中止や実地からWEBへ変更して開催されることが多かった。

④主従関係での担当制と業務の適正化について

・主従関係による担当制は継続している。デイサービスの業務担当について、育児休暇の職員の業務の割り当てを行った。割り当てられた担当業務が経験やスキル不足のために実行困難な場合が見られたため、部門を超えてフォローを行う体制をとり対応した。

⑤外部委員会及び会議への出席について

・施設長は東京都高齢者福祉施設協議会が主催の軽費分科会、新時代の高齢者福祉デザイン検討委員会、人材育成研修委員会に出席し、他法人の委員と事業運営や東京都の福祉の課題、人材育成等について情報交換を行った。

・施設長は、稲城市主催の稲城市高齢者施設長会へ出席し、稲城市との情報共有、他施設の施設長と施設運営面での課題について情報交換を行った。

・生活相談員は軽費分科会の生活相談連絡会に出席し、意見交換を行った。

■令和3年度 委員会・外部会議参加一覧

日程	研修名・委員会名	開催方法	主催者	参加者
4月23日	第1回 軽費分科会	ハイブリッド	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
7月2日	第1回 稲城市高齢者施設長会	実地	稲城市	施設長
7月2日	人材育成研修委員会	WEB	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
7月21日	第6回 稲城市保健福祉推進委員会	書面開催	稲城市	施設長
10月22日	第3回 軽費分科会	ハイブリッド	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
12月10日	第2回 稲城市高齢者施設長会	実地	稲城市	施設長
2月25日	第4回 軽費分科会	ハイブリッド	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
5月13日	第1回 新時代の高齢者福祉デザイン検討委員会	ハイブリッド	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
12月16日	第4回 新時代の高齢者福祉デザイン検討委員会	ハイブリッド	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
2月8日	軽費分科会 生活相談連絡会	WEB	東京都高齢者福祉施設協議会	生活相談員
2月9日	第7回 稲城市保健福祉推進委員会	WEB	稲城市	施設長
2月17日	第5回 新時代の高齢者福祉デザイン検討委員会	ハイブリッド	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長

※委員会は、コロナ禍のため実地とWEBを併用するハイブリッド型の開催であった。

#### ⑥職員会議や各部署のミーティングについて

・職員会議は毎月1回実施。法人内の情報及び課題について共有・協議を行い適切な部署運営に努めた。

・各部署のミーティングはサービス事業別報告（P.22「⑦職員会議」、P.28「(10)職員会議の開催」）に詳細を記載

#### ⑦事故予防、感染症予防及び身体拘束適正化委員会について

・法令に則り、指針に沿って開催し、リスクマネジメントや感染症予防対策、身体拘束・高齢者虐待について対応を委員会内で協議し、意思決定を行った。特に感染症予防委員会については、新型コロナウイルス感染状況が変化するなかで、臨時委員会を招集し、施設としての対応を随時決定した（P.21「ケアハウス事業報告⑤委員会」に詳細を記載）。

#### （4）地域貢献・地域交流

##### ①やのくち子ども食堂

・毎月1回 子ども食堂を開催し、施設まで来てもらう形でお弁当を提供した。来所が難しいご家庭には民生児童委員がお届けする形で提供した。（平均11.8名利用）。

・毎月1回 やのくち子ども食堂のフードバンク実施（令和3年11月から開始）  
平均15名程度 やのくち正吉苑包括支援センター ふらっとカフェにて

#### ■やのくち子ども食堂開催実績

日程	参加人数
4月28日	13名
5月26日	12名
6月23日	12名
7月28日	13名
8月25日	12名
9月22日	3名
10月27日	3名
11月24日	13名
12月22日	13名
1月26日	13名
2月23日	13名
3月23日	13名

※令和3年度もお弁当を事務所前で提供する形で実施した。

②つなごろう矢野口会議（稲城市支援体制整備事業の第2層協議体）

・施設長が全2回出席。2層協議体（民生委員・寿会・介護予防自主グループ・ふれあいセンター・支え合うみのりサポートセンター・地域の方々）で地域課題・地域の強みを出し合い、自然な形でつながりあう矢野口の姿を目標とする。世代を超えた場づくり、高齢者の孤食、認知症高齢者の見守り、コロナ禍における新たなつながりの形などを主な議題とした。

■参加一覧

日程	内容	参加者
7月26日 （第1回）	・これまでの経過・緩やかな見守りから一歩進んだ見守りについて・これからのつながりの形についての意見交換	施設長
11月2日 （第2回）	・報告・会の今後について	施設長

③弁天通り商店会の活性化や地域住民への周知を目的とした「弁天通り de ハロウィン」は令和2年度に引き続き、令和3年度は開催されなかった。

（5）ホームページの運用

・ホームページの新着情報で、求人情報、年4回のハーモニー松葉だより、毎月のケアハウス・デイサービスの予定表、ハーモニー松葉食事だより、エイトピア工房焼き菓子の出張販売について、そらcafeクレープ移動販売のお知らせを中心に掲載した。

（6）施設設備の保守・修繕

・修繕は、車輛の修理6件、居室内設備7件（内退去時3件）、共有部設備7件、厨房設備1件であった。いずれも経年劣化による不具合であった。

■実施した施設設備の修繕

日程	実施内容	業者
5月31日	非常用自家発電機ウォーターポンプ交換	トップラン
6月30日	車輛サイドミラー修理	渋谷自動車工業
6月30日	2階ナースコール移設	東二通信
8月11日	車輛エアコン修理	渋谷自動車
8月17日	居室エアコン交換	ケースデンキ稲城
8月25日	ボランティア室壁修繕	大石建設
8月25日	天井換気扇交換	大石建設
8月31日	車輛バッテリー交換修理	渋谷自動車工業
8月31日	居室ウォッシュレット出張修理	パナソニック
9月21日	居室ウォッシュレット出張修理	パナソニック
9月24日	厨房床下漏水調査及び修繕	大石建設
10月6日	車輛修理代	日産東京販売

10月25日	浴室シャワー修理	大石建設
11月9日	退去時居室内修繕	ワールドシステムズ
12月31日	居室エアコン部品交換	東芝コンシューマ
1月18日	ピアノ調律	高橋ミュージック
1月18日	厨房ガステーブルバーナー交換	日本給食設備
1月28日	車検修理	日産東京
3月7日	車輛修理	渋谷自動車
3月15日	退去時居室内修繕	ワールドシステムズ
3月30日	退去時居室内修繕	ワールドシステムズ

■実施した施設・設備整備

日程	実施内容	整備理由
4月13日	高圧洗浄機購入	既存の高圧洗浄機の故障による入れ替え
5月25日	ゴミステーション整備	分別の負担軽減と衛生保持
5月11日 ～7月2日	空調設備改修工事	既存の共有部分のエアコンの劣化のため
10月31日	ノートパソコン 2機	既存のパソコンの劣化のため
12月1日	玄関前花壇整備	景観の改善のため

(7) 安全管理

- ・業者による防災設備の定期点検と職員による施設内設備の自主点検を実施した。
- ・消防計画に従って総合防災訓練・自主避難訓練を実施した（ケアハウス事業報告 P.21④災害対策避難訓練に詳細を記載）
- ・災害発生時に備えて、備蓄食品の整備（入替）を行った。

■実施した定期点検（保守契約内）

日程	内容	業者
7月22日	消防用設備等保守点検（年1回）	大石建設(株)
常時	昇降機 遠隔監視メンテナンス	ジャパンエレベーターサービスグループ
5月20日、8月12日、 11月25日、2月3日	昇降機設備 保守	ジャパンエレベーターサービスグループ
4月5日、6月5日、8月 3日、10月4日、11月4 日、12月3日、2月3日	電気工作物月次点検	小野家電気管理事務所

## Ⅱ. サービス事業別報告

### 1. 軽費老人ホーム ケアハウス ハーモニー松葉

年間入退所状況

(令和3年3月31日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
入居者数	29	29	29	29	29	30	29	29	29	29	30	28	349	29.1
新規入居者数	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	3	0.25
退去者数	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	5	0.42
空室状況	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	9	0.75
入居率(%)	96.7	96.7	96.7	96.7	96.7	100.0	96.7	96.7	96.7	96.7	100.0	93.3	0	96.9

#### 《重点的取り組み》

##### (1) 入居者処遇

##### ① 食事サービスの充実

###### <目標>

- ・多様な食事を提供することで食べる楽しみを感じてもらう。
- ・食事に対する満足度を向上する。

###### <結果>

- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、自粛する行事や企画が多く、可能な範囲で実施した。

##### 実施した食事サービス

月	特別食	企画食
4	お花見弁当	※外食ツアー中止
5		※外食&買い物ツアー中止
6		※外食ツアー中止
7		
8	納涼祭屋台中止(※納涼祭自体が中止)	
9	敬老のお祝い膳(9/16)	※外食ツアー中止

10		秋の味覚祭（旬の食材 芋煮汁） 昼食を 10/21 に提供
11	刺身食（23食）	焼き芋 11/18 におやつとして提供、19名が参加。外食&買い物ツアー中止
12	刺身食（20食）、クリスマスディナー（12/25）	お汁粉 1/20 におやつとして 25名に提供。
1	刺身食（18食）、お雑煮・おせち（1/1朝昼）	握り寿司はコロナ禍のため衛生上の観点で中止
2	刺身食（17食）、恵方巻	
3	刺身食（16食）	

・刺身食(冬季 11月～3月) 計 94食提供

・誕生日食(3ヵ月に 1回開催)

5月、8月、11月、3月の計4回、日曜日の昼食にて提供

※外食ツアーは感染状況が落ち着かず感染予防の観点で未実施。

・通常の食事(朝・昼・夕)に加えてアラカルトメニュー(有料)を用意し、入居者に好きな物を追加で自由に選んで召し上がってもらうことで食事の満足度の向上を図った。

アラカルト食は令和3年4月～令和4年3月迄 延べ 1386食、1日あたり 3.87食の利用があった。

## ②介護予防

<目標>

- ・運動不足の解消と健康増進と運動の機会を設ける。

<結果>

- ・軽体操：週1回 計 48回 延 321名参加（1回あたり平均 6.7名）
- ・散歩：週1回 計 48回 延 155名参加（1回あたり平均 3.5名）  
※毎月1回は車を使用して近隣の公園へウォーキングに出かける。
- ・公園ウォーキング 月1回 計 9回 延 62名参加（1回あたり平均 7.1名）
- ・ラジオ体操：毎日

館内放送でラジオ体操を流す形のため、参加人数は不明であるが、毎回 2～3名程度の入居者が廊下に出て体操を行っていた。また、令和4年2月よりラジオ体操を集まって行う自主サークル「おはよう会」が結成され、メンバー含め 3～4名が集まって体操に取り組んでいる。

### ③レクリエーション

#### <目標>

- ・入居者間の交流及び身体機能を維持する。

#### <結果>

- ・映画鑑賞会：月2回 延 189名参加（1回当たり平均7.8名）
- ・壁面飾り(七夕、納涼祭、ハロウィン、クリスマス)：
  - 七夕：6/13、27の2日間、延 17名参加
  - 夏祭り飾り：8/22、10名参加
  - 敬老会飾り：9/11、7名参加
  - 20周年式典飾り：10/10、31の2日間、14名参加
  - Xmas飾り：11/14、7名参加
- ・ゲーム：感染状況が落ち着かず感染予防の観点で未実施
- ・ドライブ
  - 花見ドライブ：4/1、10名参加
  - 紫陽花ドライブ：6/4、7名参加
  - 紅葉ドライブ：11/25、7名参加
  - 梅見ドライブ：2/17、6名参加

### ④季節行事・外出活動

#### <目標>

- ・入居者の施設生活が単調にならないようにする。
- ・入居者同士が楽しく交流できる機会の提供。

#### <結果>

- ・実施した季節行事

実施日	内容	参加人数
8月26日	花火大会	16名
8月29日	夏祭り	25名
9月19日	敬老会	29名
12月26日	クリスマスディナー	29名
1月1日	新年会	24名
1月2～3日	正月遊び	延 16名
1月6日	初詣（穴澤天神）	6名
2月3日	節分会	13名

※外食ツアー（2ヶ月に1回予定）は、感染状況が落ち着かず未実施。

## ⑤地域交流・社会参加

### <目標>

- ・地域社会と関わり、入居者の生きがいや励みに繋げる。
- ・地域交流・社会貢献活動の場を提供する。

### <結果>

・地域行事への参加(防災訓練、文化センター作品展、地域のお祭り等)：地域行事が開催されず不参加。

・地域貢献活動への参加(やのくち子ども食堂)：延 133 食を提供、1 回の開催につき平均 11 食を提供した。今年度も感染予防のため入居者は弁当の掛け紙にメッセージを書き、間接的な交流を図る形を継続。

### ・地域の社会資源の活用

\*イトピア工房：2 月～3 月はコロナ第 6 波流行により中止、その他の月は 1 回の頻度で開催し計 10 回開催。

\*屋外クレープ販売：月 1 回の頻度で計 12 回開催。

## ⑥健康管理

### <目標>

- ・入居者の健康状態の把握及び疾病の早期発見と感染症予防を行う。

### <結果>

・看護師による健康相談：4 月～5 月は月 2 回の開催、6 月以降はコロナ感染状況が拡大のため月 1 回の開催に縮小。月平均 10～12 名の参加があった。

・歯科検診（年 1 回）：3 月実施を予定していたが、感染状況が拡大していたため中止。

・入居者健康診断：令和 4 年 2 月 17 日に医療法人財団京映会にて実施。入居者 24 名が受診 ※未受診者はかかりつけ医療機関で各自実施済。(健康診断結果内訳：要精密検査 4 名、治療中 20 名)

・インフルエンザの予防接種実施：かじわらクリニックへ依頼し、インフルエンザ予防接種 11 月 16、17 日に実施。入居者 27 名が接種。

・新型コロナウイルスワクチン接種実施：1 回目 6 月 15、16 日、2 回目 7 月 6、7 日、3 回目 2 月 18、25 日に入居者全員が接種済。

## ⑦苦情解決・相談

### <目標>

- ・苦情解決第三者委員会により苦情の早期解決及び予防対策を行う。
- ・意見箱から入居者から意見や要望を聞き取り不満解消や改善につなげる。
- ・満足度調査により入居者のニーズを把握し、施設運営に反映させる。

・家族・保証人会で運営面の理解と緊急時の対応の協力を得て、職員と保証人間の連携を深める。

<結果>

・令和4年3/26に委員会開催。苦情申し立て(0件)や意見箱に寄せられた意見(食事について3件)、アンケート結果等について委員へ報告を行った。

・令和2年度の意見箱への意見は計3件寄せられた。いずれも食事に関する要望であったため食事会議にてレパスト職員へ報告、改善を依頼した。

・満足度調査を令和3年12月に実施。1月の懇談会にて集計結果について報告を行った。運営に係る意見については次年度の事業計画へ反映させた。

・家族・保証人会の開催を計画していたが、コロナ禍のため対面での保証人会は見送り、12月に施設資料を保証人・家族へ送付した。

### ⑧環境整備

<目標>

衛生保持のため各種検査と清掃を定期的実施する。

<結果>

実施した各種検査及び清掃

日程	内容	頻度	業者
9月 3月	レジオネラ検査	年2回	一般財団法人東京顕微鏡院
9月	水質検査	年1回	一般財団法人東京顕微鏡院
1月	受水槽清掃	年1回	(有)タルヤ設備工業所
4月	排水管清掃(厨房内の排水管清掃)	年1回	(株)水研社
9月、12月	害虫駆除(樹木及び厨房の害虫駆除)	年2回	(株)京王消毒
12月	ワックス清掃	年1回	(有)スポンツァンダ ヌツス

<目標>

施設中庭及び建物内の保全と管理を行ない施設美化に努める。

<結果>

・中庭植木の剪定 施設内及びベランダ通路の清掃

用務員により定期的に中庭植木剪定及び雑草除去(春、秋)を実施

ベランダ及び非常階段の高圧洗浄清掃を6月と11月に実施

各居室のエアコンフィルター清掃5月、10月に実施

<目標>

ゴミステーションのダストボックスの老朽化があり、現状の使用状況では不衛生であることから、ごみの保管及び管理の適正化と衛生保持のため新規にダストボックスを購入してゴミステーションの整備を行う

<結果>

5月にダストボックスを2台購入。厨房用と施設用に分けて使用することにより分別の負担が減り、ゴミ排出時の衛生保持が図れるようになった。

<目標>

施設中庭及び花壇の整備を行い入居者が活用・利用しやすい空間作りに努める。

<結果>

- ・10月に花壇を日本庭園風に整備を行い景観の改善につなげた。
- ・入居者へ鉢植えを置くスペースとして11月より開放したが、利用する入居者はほとんどおらず1名のみに留まる。

## (2)施設運営

### ①入居稼働率の維持・向上

<目標>

- ・ケアハウス入居稼働率99.3%

<結果>

・入居稼働率は97.5%で目標値は達成できず。3名の退所があり入所を手配したがコロナ禍の影響で入居を辞退したり保留とする待機者が多く、それにより空室期間が長引いたことが原因。

<目標>

- ・30名以上の待機登録者を確保する。

<結果>

・待機者は27名で目標値には届かず。今年度は7名の見学があったが、待機登録となったのは1名のみ。また、年度内に5件の入退所があり、待機者数が減少したことも未達成の要因となっている。

<目標>

・待機者確保のため軽費老人ホームのパンフレットや広報誌を活用し近隣地方公共団体の高齢福祉担当者や包括支援センターに営業を積極的に行う。

<結果>

・施設の近隣の医療機関及び包括支援センターへ広報誌やパンフレットを配布、見学希望者を随時受け入れ待機者の確保に繋がるよう努めた。

## ②サービス提供補助金や助成金の確保

### <目標>

- ・サービス提供補助金の適正運用を行うことや新規の加算・助成金の申請を行い財源を確保する。

### <結果>

- ・共同募金会の助成金は本年度はコロナ禍の影響で実施されなかったため未申請。
- ・費用補助金の加算として①民間施設給与等改善費管理費特別加算(子ども食堂の実施)、②施設機能強化推進費加算(宿直員雇用による総合防災対策強化)、③入所者処遇特別加算(60歳以上の職員雇用)を申請し補助金の増額に繋げた。

## ④災害対策、避難訓練

### <目標>

- ・消防法に基づき、消防署や地域と連携し毎年2回、地震や火災、水害発生を想定した総合防災訓練を行い、また施設内の消防設備の把握や防災計画を周知し、迅速かつ的確な救助や、ご入居者が円滑に避難できるように自主避難訓練を年2回行う。避難経路の確保とご入居者への周知徹底を図り、防災設備業者(年2回)と防火管理者(毎月1回)消防設備点検を行い、設備や環境に不備が生じないように管理する。

### <結果>

- ・実施した防災訓練及び自主避難訓練

日程	訓練項目	内容	参加人数
5月27日	総合防災訓練	夜間火災想定	入居者28名 職員10名
9月23日	自主避難訓練	水害想定訓練	入居者23名 職員12名
10月14日	総合避難訓練	日中火災想定	入居者20名 職員10名
3月17日	自主避難訓練	地震想定訓練	入居者18名 職員6名

### <目標>

- ・災害時BCP(事業継続計画)を作成し、中長期的な事業計画を立て災害時の初動対応やライフライン復旧までの指針として活用する。

### <結果>

- ・令和6年3月末日までにBCPの整備が義務付けられており、現在作成中。

<目標>

・非常備蓄物に関して定期的な確認及び入れ替えを行い、50名分3日分の水分・食糧を常時備蓄し、献立表を立てるなど災害時に対応ができるよう整備する。

<結果>

・6月と10月に賞味期限の近い非常食の入れ替えを行い災害時の備えを整備した。

## ⑤委員会

<目標>

・入居者の生命・身体の安全及び健康保持を目的に各種委員会を開催し、安全配慮義務の遵守に努める。

<結果>

令和3年度 法人内委員会

日程	委員会名	内容
4月28日	第1回 感染症委員会	・年間スケジュール ・新型コロナウイルスについて
4月28日	第1回 事故予防委員会	・今後の活動内容 ・事故報告書の判断基準及び通知の確認
4月28日	第1回 身体的拘束適正化検討委員会	・委員会と指針の確認 ・今後のスケジュール
7月7日	第2回 感染症委員会	・夏に向けての感染症対策
11月13日	第3回 感染症委員会	・新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症対策
7月7日	第2回 身体的拘束適正化検討委員会	・報告の集計と分析 ・研修内容の検討
9月23日	第2回 事故予防委員会	・事故報告書の検証
11月13日	第3回 身体的拘束適正化検討委員会	・報告の集計と分析 ・研修内容の検討
1月15日	第4回 感染症委員会	・緊急事態宣言中の対応について
2月12日	第3回 事故予防委員会	・事故報告書の検証
1月15日	第4回 身体的拘束適正化検討委員会	・報告の集計と分析 ・令和3年度振り返り

## ⑥内部監査などによるレセプト点検、内部牽制機能強化

<目標>

・運営基準等に則り運営や請求のレセプト点検を行うとともに、職員の主従体制による業務執行により内部牽制を行う。

<結果>

・作業に対して複数の担当者を配置し、レセプト点検を含め内部牽制を行った。

## ⑦職員会議

### ○ケアハウス運営会議

#### <目標>

- ・隔月 1 回実施し、入居者の状況把握、利用者処遇、行事内容、環境面を協議・検討する。

#### <結果>

- ・隔月 1 回実施。部署内の情報及び課題、入居者処遇等について共有・協議を行いサービスの質の向上に繋がるよう努めた。

## ⑧地域包括ケアシステム構築への取組み

#### <目標>

- ・施設が地域の問題を捉え、地域の問題を地域住民である入居者の問題として介入していく。

#### <結果>

- ・つながろう矢野口会議に施設代表として施設長が全 2 回参加し、地域における課題について協議及び意見交換を行った。やのくち子ども食堂が地域のニーズに対してできることや今後の在り方を協議した。

## ⑨入居者が参画する係

#### <目標>

- ・入居者から住環境係、食事係、行事係を選出し、職員と会議を行い、運営面で入居者の意見を吸い上げる。

#### <結果>

- ・入居者から住環境係 2 名、食事係 2 名、行事係 2 名を選出し、3 ヶ月に 1 回の会議に同席した。入居者からの意見を運営に取り入れるための機会をつくった。要望が多い食事係では、外部委託の厨房業者へ入居者の率直な意見を直接伝えた。

## 2. 老人デイサービスセンター ハーモニー松葉

令和3年度利用状況

(令和4年3月31日現在)

月	実利用者数	延利用者数	平均利用者数	平均介護度	新規利用者 (介護度変更含む)	終了利用者 (介護度変更含む)
4	75	610	23.5	1.5	3	5
5	69	574	22.1	1.4	0	4
6	70	555	21.3	1.4	3	0
7	71	598	22.1	1.3	1	2
8	69	565	21.7	1.4	2	4
9	66	597	23.0	1.4	2	1
10	70	613	23.6	1.5	11	5
11	74	623	24.0	1.5	4	2
12	75	603	25.1	1.5	4	3
1	76	611	25.5	1.5	5	1
2	80	631	26.3	1.4	3	0
3	79	719	26.6	1.5	0	0
合計	-	7299	23.7	1.4	38	27

### 《重点的取り組み》

#### (1) 行動基準の遵守

##### <目標>

・「安全性」、「礼儀正しさ」、「個別性」、「効率」の4つの行動基準に従ってサービスを提供する。

##### <結果>

・職員一人一人が行動基準を意識してサービスにつなげることができるように、研修の開催や育成制度の活用、業務手順を徹底した。

・介護技術・リスクマネジメント研修を実施し、様々なケーススタディを用いて問題への解決法を探り、職員全体で理解を深め利用者が安全に過ごせるよう努めた。新型コロナウイルス感染予防対策は継続している。

・新人職員にはプリセプター制度を用いて教育・指導を実施した。悩みを一人で抱え込まないよう業務終了後にヒヤリングを実施し問題解決に努めた。接遇マナー・リスクマネジメント研修の実施により介護職員の接遇に対する意識を高め、ご利用者に対して誠実に対応するよう努めた。

・介護職員が通所介護計画書の短期・長期目標を把握できるように情報共有し、適切なケアの提供が行えるよう努めた。

## （２）個別性を重要視したサービスの提供

### ＜目標＞

- ・ ICFに基づいた評価を行い、利用者 1 人ひとりに適したサービスを提供する。

### ＜結果＞

・ 個別ケアを実践するために介護職員が通所介護計画書の情報から利用者の体の状態や好みを細かく把握することで、利用者へ個別ケアを行う意識が向上した。コロナ感染症予防の観点から音楽グループや外出プログラムの自粛によってプログラムの内容を個別に対応することが難しく、また十分な職員を配置することができなかつたため一人ひとりに適合したサービス提供には至らなかつた。

## （３）家族会の実施

### ＜目標＞

・ 年 1 回家族会を行い、意見交換を行なう。デイサービスの運営状況報告や利用状況が分かるように活動状況のビデオ上映会等を行い、家族への運営面の理解及び家族に安心してもらう。

### ＜結果＞

・ 令和 4 年 3 月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から実施には至らず延期となった。

## （４）自立支援を促す介助

### ＜目標＞

・ 自立支援の妨げにならないように利用者に合った介助を行う。必要な方へ必要な介助を心がけ、家族の介護負担の軽減を目指す。

### ＜結果＞

・ 介護職員が利用者に提供するケアの根拠を明確にし、同じ目標に進んで行けるよう通所介護計画書の情報を把握してケアに当たった。具体的には移動の際、自立されているご利用者には付き添わずに遠位見守り対応を実施。付き添いの必要な方でも転倒の際に支えられる距離で対応を行った。デイ終了後ご利用者が自らテーブル上のゴミ箱やティッシュケースの片付けやひざ掛け・クッションといったご自分が使用された物の片付けを自ら行ってきている。ご利用者が自分でできることは自分でやっていただくことで、自立支援を目的として対応した。

#### (5) 送迎に関する会議の実施（年4回）

##### <目標>

・年2回運転手と正規職員で運転手会議を行い、事故予防のためのルート確認、情報共有を行う。

##### <結果>

・運転手会議を第一回令和3年6月18日・19日 第2回令和4年1月13日・17日 第3回2月8日・9日 第4回3月14日・18日に実施し運転手全員が参加。運転マニュアルや送迎ルートの確認、車いす対応車両の操作とタイヤチェーンの装着方法を習得した。

運転手と介護職員の連携を深め利用者の状況を把握する目的から、令和4年1月より介護職員のみで行っていた帰りのミーティングに運転手も参加し、送迎時の対応や利用者の情報を共有することで安全に送迎が行えるよう努めた。

令和4年2月12日の事故予防委員会で話し合った結果、2月14日より運転手との朝の申し送りを実施しており、利用者の出欠確認、安全運転の周知を行っている。

#### (6) 介護予防体操

##### <目標>

・利用者に合わせた運動プログラムを基本として、柔軟性と筋力向上トレーニング、口腔体操を中心とした運動プログラムを実施する。プログラムにラジオ体操第一を必ず取り入れ、ある程度一定量の運動が行えるよう口腔体操も含め取り組んでいく。

##### <結果>

・運動プログラムにラジオ体操を取り入れ、ある程度一定量の運動が行えるよう努めた。また介護職員によって体操の提供時間がまばらだった為、30分間は必ず行えるよう意識統一して対応した。

#### (7) レクリエーション

##### ①グループ活動

##### <目標>

・利用者の個々の興味・関心に近いレクリエーションを自己決定してもらう。職員は利用者の興味・関心を把握する。

##### <結果>

・計画書様式を変更したことで、利用者・家族からの意向の聴取に漏れがなくなり、希望や関心に沿ったレクリエーションを勧めることができた。

■実施したグループ活動

グループ名	曜日	頻度	実施内容	参加人数
運動	月	週1回	天候によって施設外周や近隣公園をウォーキング・雨天の場合、施設内でボール体操や廊下をウォーキング・第3週月曜日は稲城市内の公園に出かけウォーキングを実施	1日平均5名 延240名
アート	火	隔週	主のプログラムが手工芸の場合はそちらに参加しており、月に2回のペースでアートグループを実施	1日平均8名 延192名
玩具	月 水 土	週3回	麻雀を中心にメンバーが揃う日は実施	1日平均4名 延576名
美容・整容	木	週1回	参加人数を縮小して密にならないよう、お話を中心にメイク・フェイスパック・爪切り・ネイルを行った。メイク道具は都度消毒を行ないながら実施。	1日平均4名 延192名
園芸	金	隔週	テーブル花の作成やお庭に季節のお花や野菜をプランターに植えて成長を楽しむ。草むしりや水やりの実施。	1日平均4名 延96名

②季節行事・外出活動等

<目標>

- ・利用者が1年間飽きずに楽しめるように季節感にちなんだ行事を定期的開催する

<結果>

■実施した季節行事

実施日	内容	参加人数
6月2・3日 (2日間)	紫陽花バスツアー	1日平均23名 延46名
8月25・26日 (2日間)	デイサービス縁日	1日平均23.5名 延47名
9月20日	敬老会 (物まねタレントのショーを観賞・職員によるダンスを披露・ご利用者全員にお茶のプレゼントを配布)	22名
11月18・19・20日 (3日間)	紅葉バスツアー	50名
12月23・24・25日	クリスマス会 (ビンゴ大会・職員によるダンスを披露・ご利用者全員にお茶のプレゼントを配布)	1日平均25.6名 延77名

(3日間)	用者全員にクリスマスプレゼントでフェイスタオルを配布)	
1月4・5・6・10日(7・8は雪のため中止) (4日間)	初詣	1日平均 12.5名 延 50名
2月26・28・3月4日 (3日間)	梅見ツアー	1日平均 20名 延 60名

※予定していたお花見バスツアー、こいのぼり見学、餅つき大会、初詣、梅見ツアーは新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から実施せず。

※予定していたお楽しみ弁当の提供(毎月1回)は配食業者と食事形態の調整がつかず実施には至らなかった。

- ・ご当地おやつ提供(毎月1回): 稲城市のお店で購入したおやつを提供  
(三好・もち吉 月/1回平均 25名 延 300名)
- ・イベント食: イベントの秋の味覚祭で昼食として提供(21名)
- ・クレープ移動販売: 移動販売のクレープをおやつとして提供(月1回 25名 延 300名)
- ・お楽しみ弁当: 4月1・2日2日間で提供(1日平均 22名 延 44名)
- ・新年祝賀会: 施設長・職員からの挨拶・百人一首・書初め・福笑い  
3日間で開催 1月4・5・8日に開催(1日平均 25名 延 75名)

※予定していた秋の戸外活動・第7小学生交流会・稲城市民祭作品展示は新型コロナウイルス感染要望の観点から実施せず

#### (8) 人材育成・サービスの質の均一化

##### ○プリセプター制度について

###### <目標>

- ・新人看護・介護職に対し、経験のある先輩看護職・介護職が広範囲にわたって手本を示し、OJT指導計画に沿って指導を行う。

###### <結果>

- ・新人職員には正職・嘱託職員の護職員がプリセプターとして1年間担当した。年間スケジュールに沿って業務終了後、チェックシートを用いて業務の習得・遂行度合いを確認し指導・助言・相談を行った。1・3・6ヶ月めで面談を行い面談結果に基づいて改善できるように助言・指導を行い1年間でプリセプター制度を終了とする。その後も相談役として新人職員から随時相談しやすい環境を整え、新人育成に努めた。

#### (9) 伝達講習の義務化

##### <目標>

- ・外部で研修を受けた職員はデイミーティング内で他職員へ伝達講習をする。

##### <結果>

- ・新型コロナウイルス感染症拡大により対面での研修がオンラインでの開催となった。高齢の職員が多く自宅で PC を使用してオンラインでの研修を受講することが難しく実施には至らなかった。

自宅での受講が難しい為、オンライン研修を施設で受講できる環境を整え、必要に応じて研修に参加できるよう努めていく。

#### (10) 職員会議の開催

##### <目標>

- ・デイミーティングを月 1 回行う。

##### <結果>

- ・毎月第 2 土曜日にデイミーティングを実施。基本全員が参加し運営報告・利用者の情報の共有を行った。ヒヤリハット・事故報告の検証や、ケーススタディを通じて利用者への対応方法の統一を図った。

#### (11) 職員体制の充実

##### <目標>

- ・介護福祉士や介護支援専門員、社会福祉士等の資格取得支援を行い、組織としてキャリアパス体制の構築を行う。

##### <結果>

- ・介護福祉士・社会福祉士・等の国家資格や社会福祉主事・介護予防運動士等の資格取得をする職員には必要に応じて資格取得支援を行っている。実務者研修 1 名に支給。

#### (12) ボランティアの受け入れ

##### <目標>

- ・新型コロナウイルス感染状況により受け入れを検討する

##### <結果>

- ・令和 3 年 11 月よりコロナウイルス感染者数の減少によりお茶配膳と午後活動のボランティアの受け入れを再開した（受け入れ基準は①ワクチン 2 回摂取済み②活動中はフェイスシールドを着用③受け入れ人数は 1 回 3 名まで）。令和 4 年 1 月より再びオミクロン株の感染拡大により午後活動のボランティアの受け入れを中止している。お茶配膳のボランティアについては、利用者との接触が少ない・一人での活動ということから受け入れを継続している。

(13) 令和3年度 年間利用者数の目標値と実績

・令和3年度目標値の年間延利用者数 7,700 名に対して、実績値は 401 名少ない 7,299 名、1 日平均延利用者数 25 名に対して、実績値は 1.3 名少ない 23.7 名であった。1 日平均延利用者数 25 名は令和3年 12 月以降達成できている。今年度中の新規利用者は 38 名、終了利用者は 27 名で差し引き 11 名分が増加した。令和3年 10 月より大幅に新規利用者が増え、オミクロン株が流行した令和3年 12 月以降も終了利用者が少なく推移し、第4四半期からようやく目標値達成ペースとなった。(P24 令和3年度利用状況表)。

■年間利用者数の目標値と実績

	1 日平均延利用者数	年間延利用者数	備考
目標値	25 名	7,700 名	※年間営業日数は 308 日で 試算
実績	23.7 名	7,299 名	
差	△1.3 名	△401 名	

### 3. 介護予防体操教室事業

全 12 回の事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応を稲城市と協議した結果、感染状況を踏まえ今年度の事業は中止となった。デイルームの場所の提供や講師とメンバーとの連絡調整で支援している「サフラン会」の自主グループ活動についても、感染状況を踏まえて中止とした。

以上